

ラレ、子内政立、元親兼定ヲ豊後ニ逐ヒ、内政ヲ大津長岡郡ニ徙シ、終ニ全州ヲ奪ヒ、兵ヲ出シテ隣州ヲ侵シ、阿波ヲ取ル、八年、内政ヲ伊豫ニ放チ、一條氏亡ブ、五世一元親元親尋テ伊豫讃岐ヲ併セ、自ラ四國ノ主ト稱ス、十三年、豊臣氏將ヲ遣テ南征シ、其三州ヲ削リ、元親ニ本州ヲ與フ、文祿中、徒テ浦戶郡ニ治ス、慶長四年、元親卒シテ子盛親嗣グ、關原ノ役、西軍ニ屬ス、徳川氏其封ヲ奪テ之ヲ山内一豊ニ賜ヒ、高知ニ治シ、世襲、明暦二年、一豊ノ孫忠豊其弟忠直ヲ中村ニ分封ス、後二明收封セラルル安永九年、忠豊ノ後六世豊チカ雍同族豊産ダニ新田壹萬三千石ヲ分ツ、王政革新、廢シテ高知縣ヲ置、

〔先代舊事本紀十〕都佐國造

志賀高穴穗朝成御代、長阿比古同祖三島溝杭命九世孫小立足尼定賜國造、

波多國造

瑞籙朝神御世、天韓襲命依神教云定賜國造、

〔續日本紀十五〕天平十五年六月丁酉、外從五位上引田朝臣虫麻呂爲土左守、

〔吾妻鏡十二〕建久三年十月十五日甲寅、左女牛若宮領土佐國吾河郡、京都大番役之外、被停止公事、

但件役猶爲別當秀嚴惟光子廣沙汰、可催勤者、以其旨下知守護人、中務丞經高云云、行政盛時等奉行云云、

〔吾妻鏡十六〕

正治二年八月二日乙酉、佐々木中務丞經高蒙御氣色淡路、阿波、土佐以上三箇國守護

職以下所帶等、被召放之、以其趣所被申、京都也、是日來聊依罪科雖被經沙汰、勳功異他之間、暫相宥

之處、爲洛中警衛之士、令騷京都、背叡慮之條、難及私寬宥之旨、再往被經沙汰、如此云云、

〔土佐軍記上〕土佐守護

土佐七郡と申は、幡多、高岡、吾川、土佐、香我美、長岡、安喜七郡也、是に御所壹人、守護七人有、